

## 第 168 回 東葛しぜん観察会

### 夏の自然たんけんラリー

藤田 隆 (松戸市)

日 時：2021 年 7 月 25 日 (日) 13～15 時 天気：晴

場 所：21 世紀の森と広場 パークセンター～みどりの里 (松戸市)

参加者：61 名、指導員 9 名

担当指導員：勝田・野坂・藤田、指導員：小川・勝股・草野・渋谷・三嶋・山口

ブルーサルビアの咲く花壇でクマバチが花の間を飛び回り、蜜を集める姿に「初めて蜜を吸っている姿をみた」、「静かにしていれば刺さないんですね」と親も子もビックリしていました。

花壇の中にある日時計では、クイズを出しました。数字が書いてあるけれど、何の数字かなと、「12 の次に 1 だよ」と感の良い子は時計であることに気がつきますが、どうやって時を計るのか、わからないようでした。今の時間はちょうど午後 1 時 30 分だけど、数字の 1 と 2 の間に影が伸びているねとヒントを与えるとすっかり分かったようでした。影の先がほぼ 2 時に近くなっていたので、大人向けには「正確な時間とは異なりますね」「昔はそんなアバウトな時間感覚で生活していましたね」と納得してもらいました。

次にオオバコを使った草すもうとオオバコの葉っぱスジだし競争をしました。初めて草すもうをした子どもたちが多く、若いお父さんの中には「やったことがあります」と面白がって子どもと遊んでいました。葉っぱスジ出しでは、子どもが引っ張って、ビューと伸びるスジを「すごい、すごい」と喜ぶ母親、「私も」と参加して楽しそうでした。

ハス池には「トンボをみつけよう」の看板に 12 種類トンボが掲げてありました。シオカラトンボが水面すれすれに飛ぶと、小学生の男の子は「シオカラトンボだ」と叫び、上空にチョウトンボが飛び、アオモンイトンボを見つけ「細いトンボがいるよ」と教えてくれるお父さんもいました。山から下りてきたオニヤンマを見つけたグループもいて、沢山のトンボに出会うことができました。

山側の木陰空間に入るとヒヤッと涼しくなりました。看板に掲げられた葉っぱはすぐに見つかりました。ちぎって鼻を近づけると「臭っ！」と反応するお父さん、「あれっ、何かに似ているな」と目を輝かせます。指導員からはヒントを出しませんでしたが、「照り焼きチキン」、「カフェオレ」、「ピーナツバター」と、「臭い」といった割にはおいしそうなにおいが出てきました。

その後のドクダミは庭の草むしりの度に「嗅ぎ慣れている」と、ドクダミには反応が薄く、ヨモギは「草餅を連想する」といって嗅いでいました。

「これは何かな」の看板にはシラカシドングリの赤ちゃんの画像が見えています。子どもから「たまご？」と反応がありました。「シイの実だ」というお父さん。白っぽい葉の裏を見せてシラカシと種明かしをしました。シラカシのドングリが緑色から茶色になって秋に実を落とすこと、ドングリにはクヌギ・マテバシイ・スダジイなどがあることを説明しました。

最後に「虫をさがそう」のポイントでした。虫捕りアミと虫カゴを抱えて草むらへ駆け込みます。コバネイナゴ・ショウリョウバッタなどが比較的捕まえやすく、どのアミにも入りました。シオカラトンボ・キタキチョウ・チョウトンボ・ヤマトシジミが今日の成果でした。

虫捕りで 子どもたちは時間を忘れて夢中になってしまふのではないかと心配でしたが、次のグループがやってきたことがきっかけになって、「これでおしまい」と親が決まりをつけて、お土産シールをもらって帰っていました。



親子で楽しく虫捕り